

予 算 要 求 資 料

令和7年度3月補正予算

支出科目 款：農林水産業費 項：農業費 目：主要農作物対策費

事業名【新】「清流のめぐみ」ブランド力向上事業費補助金（R 8分）

（この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください）

農政部 農産園芸課 米麦大豆係 電話番号：058-272-1111（内4118）

E-mail : c11423@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 補正要求額 2,000 千円 (現計予算額： 0 千円)

＜財源内訳＞

区分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 入	寄附金	その他	県 債	一 般 源
現 計 予算額	0	0	0	0	0	0	0	0	0
補 正 要求額	2,000	1,000	0	0	0	0	0	0	1,000
決定額	2,000	1,000	0	0	0	0	0	0	1,000

2 要求内容

（1）要求の趣旨（現状と課題）

近年の夏の異常高温により、県内では一部地域一部品種において高温障害による品質低下が見られる。水・肥培管理による高温対策を推進する一方、高温耐性品種「清流のめぐみ」及び「にじのきらめき」を令和8年度より県の奨励品種に採用し（予定）、これら品種の導入による対策を提案している。

県育成品種「清流のめぐみ」については、令和7年度作付面積は38ha程度にとどまっているが県奨励品種として「清流のめぐみ」を拡大することで品質改善による食料自給率向上や独自ブランドでの販売により市場に左右されにくい米の増産が可能となる。

（2）事業内容

消費者等を対象に米卸売業者等が行う知名度向上の取組み

- ・米集荷・販売卸売業者、農地所有適格法人、農業者を含む協議会等の団体が行う「清流のめぐみ」のPR活動を支援

(3) 県負担・補助率の考え方

当該品種は県育成品種であることや高温耐性品種の導入は高温対策として有効であることから県が費用負担した上で実施する。

補助率：1/2以内（補助上限：1,000千円）

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
補助金	2,000	
合計	2,000	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

「ぎふ農業活性化基本計画」（仮称・令和8年3月策定予定）

基本方針2「潜在力をフル活用した生産強化」

「食料・農業・農村基本計画」（令和7年4月11日閣議決定）

第4 食料、農業及び農村に関し総合的かつ計画的に講すべき施策

(2) 国・他県の状況

なし

(3) 後年度の財政負担

米の生産性向上のために、高温対策を行うことは重要であり、引き続き県が負担する。

(4) 事業主体及びその妥当性

事業主体：米穀集荷販売・卸売業者、農地所有適格法人、農業者を含む協議会等の団体（規約の定めがあるもの）

「清流のめぐみ」を取扱う事業者が品種特性などを理解し、それぞれの顧客に對しPRすることで効果的に知名度向上を図ることができる。

県単独補助金事業評価調書

■ 新規要求事業

□ 継続要求事業

(事業内容)

補助事業名	「清流のめぐみ」ブランド力向上事業費補助金
補助事業者（団体）	米卸売・販売業者 (理由) 消費者を対象に「清流のめぐみ」の知名度向上を図るため
補助事業の概要	(目的) 「清流のめぐみ」の生産拡大 (内容) 「清流のめぐみ」のPR活動を支援
補助率・補助単価等	定額・定率・その他 (内容) 1/2以内、上限1,000千円 (理由) 「清流のめぐみ」の生産拡大を加速的に進める必要があるため
補助効果	「清流のめぐみ」の知名度を向上し、販売促進されることで生産拡大につながる
終期の設定	終期 令和10年度 (理由) 奨励品種採用後（予定）、重点的に取組を行うため

(事業目標)

- ・終期までに何をどのような状態にしたいのか
「清流のめぐみ」の知名度が向上し、販売促進されることで生産拡大につながる

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前 (R6)	R6年度 実績	R7年度 目標	R8年度 目標	終期目標 (R10)	達成率
水稻の多収・高温耐性品種の作付面積(ha)	2,400	—	—	2,450	3,162	—

補助金交付実績 (単位:千円)	R4年度	R5年度	R6年度
	—	—	—

(これまでの取組内容と成果)

令和4年度	指標① 目標： 実績： 達成率：
令和5年度	指標① 目標： 実績： 達成率：
令和6年度	指標① 目標： 実績： 達成率：

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断)

3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない

(評価) 3	夏の高温による米の品質低下が見られることから、高温耐性品種の生産拡大は急務である
-----------	--

・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか)

3：期待以上の成果あり（単年度目標100%達成かつ他に特筆できる要素あり）

2：期待どおりの成果あり（単年度目標100%達成）

1：期待どおりの成果が得られていない（単年度目標50～100%）

0：ほとんど成果が得られていない（単年度目標50%未満）

(評価)	
------	--

・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか)

2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている

(評価)	
------	--

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項

新品種の「清流のめぐみ」は生産量が少ないため、生産者・消費者の双方に認知度が高いことが課題となっている。このため、品種の特徴やおいしさを広く知つもらう取組が必要。

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか

米は1年に1作であり、品種特性の理解醸成を行いつつ、面積拡大に向けた種子増殖を行う必要があるため、複数年継続して事業を行う。